

アルメニア国立文書館訪問記

塩谷 哲史

筆者は2007年10月26日より3週間をかけて、18～19世紀ロシア帝国内におけるアルメニア人コミュニティの活動に関する史料調査のため、アルメニア共和国の首都イェレヴァンに滞在した。その際おもに史料調査を行った場所が、アルメニア国立文書館 Hayastani Azgayin Arxiv / Национальный архив Арменииである⁽¹⁾。

本文書館の沿革および収蔵史料の概観については、インターネットサイトおよび手引き書に詳細な記述があるため、そちらに譲りたい⁽²⁾。1924年母体となるアルメニア社会主義共和国中央国立文書館 Центральный государственный архив Армянской ССР が設立された。ソ連時代には、文書数の増加、種類の多様化に応じて、「中央歴史文書館 Центральный государственный исторический архив」や「中央国立十月革命および社会主義建設文書館 Центральный государственный архив Октябрьской революции и социалистического строительства」などへの分割が行われた。ソ連からの独立を経て2002年の改組により、

⁽¹⁾ 住所は以下の通りである。

Hrač'ya K'oč'ari p'oğoc' 5, Yerevan 0033, Hayastani Hanrapetut'yun (Hr. Kochar Str. 5, Yerevan 0033, Republic of Armenia)

⁽²⁾ 本文書館のインターネットサイトは以下の通りである。

www.armarchives.am/ar/ (アルメニア語版)

www.armarchives.am/ru/ (ロシア語版)

www.armarchives.am/en/ (英語版)

info@armarchives.am (問い合わせ用メールアドレス)

なお、本文書館が年2回刊行している通報 Banber / Вестник も、2003年第1号から当サイトよりダウンロード可能である。

また、本文書館に所蔵されているフォンドに関する手引き書 путеводитель は、数冊出版されているが、主なものは以下の二つである。これらの手引き書は、文書館で閲覧が可能である。

『アルメニア社会主義共和国中央国立歴史文書館：手引き書』(ロシア語)

Центральный государственный исторический архив Армянской ССР: путеводитель, главный редактор В. А. Рштуни, Ереван, 1958, 200 стр.

『アルメニア社会主義共和国中央国立十月革命および社会主義建設文書館：手引き書』(ロシア語)

Центральный государственный архив Октябрьской революции и социалистического строительства Армянской ССР: путеводитель, составители М. С. Аракелян и др., Ереван, 1990, 456 стр.

アルメニア国立文書館は、各部局に加え、イエレヴァンを含む11の地方支部 *marzayin masnačyugh / областной филиал*、29の地域代表部 *tarack'ayin nerkaayac'uc'δ'ut'yun / территориальное представительство* などを下部機関として備え、5759ファンド *fond / фонд* 341万9353保存単位 *rahranman miavor / единица хранения* の文書を所蔵するに至っている(2006年1月1日現在)。時期としては17世紀からロシア帝国期、ソ連期にかけて、地域としては現在のアルメニア共和国の領域に加え、旧ロシア帝国各地のアルメニア人コミュニティに関する文書が収蔵される。所長は Amatuni Virabyan 氏。副所長の Sonya Mirzoyan 氏は、アルメニア第一共和国(1918～1920年)史を専門とされ、30年以上本文書館に勤められており、所長にも就任した経験をお持ちである。

筆者が利用した本文書館閲覧室は、イエレヴァン市内の北部、地下鉄の終点であるバレカムチュン *Barekamut'yun* 駅よりコチャル *Hr. K'oc'ar* 通りを左手に歩いて3分ほどにある建物の中にある。市内中心部よりマルシュルートカ(路線タクシー)を利用することも可能である。

本文書館閲覧室の利用申請にあたり、事前に必要なものは、アルメニア共和国内の研究機関長から本文書館所長宛の紹介状である。筆者の場合、アルメニア共和国科学アカデミー歴史学研究所にあらかじめ問い合わせ、指定された期日に直接出向いて、当研究所長から紹介状をいただいた次第である。

まず、入口でパスポートチェックを受ける。その際、初めて閲覧室を利用する旨を伝える。すると、本館裏手にある所長室に通されるので、所長もしくは所長が不在の際にはその秘書に紹介状を渡す。その後、閲覧室に行き、所定の用紙に姓名、住所、研究テーマ、アルメニア共和国での滞在先などを記入する。用紙はすべてアルメニア語で書かれているが、閲覧室のスタッフがロシア語ないし英語で説明してくれるので、問題はないであろう。パスポートのコピー、顔写真は不要であった。余談になるが、閲覧室のスタッフの対応は非常に親切で、文書を閲覧中も、分かりにくい箇所について、他のスタッフを交えて読み方を検討してくれることがあった。なお、所長は不在のことが多く、何か申請事項や相談がある際は、副所長に裁可を求めることになるので、早めに副所長にも会っておくことをお勧めする。

閲覧室で所定の用紙への記入が完了すれば、すぐにカタログの閲覧、文書の申請が可能である。1日に申請可能な文書の数は、10ファイル *t'gt'aranak / дело* までである。

閲覧室の開室日および開室時間は、月曜日から金曜日までの10:00～16:30である。土曜日、日曜日は閉館となる。昼休みはスタッフが交代でとるため、文書や複写の申請に支障が出ることはない。また、閲覧室のスタッフは時間をきちんと守るので、開室時間が遅くなったり、閉室時間が早まったりすることもなかった。ただし、学生向けに文書館利用のためのレクチャーが行われることがあり、その際は2～3時間閲覧室への立ち入りは制限される。

閲覧室には、各ファンド別に作成されたカタログが書棚に収蔵されており、閲覧者は自由に閲覧することが可能である。ソ連期に作成されたカタログはおもにロシア語であるが、ファンドによってはアルメニア語のみのカタログもある。

文書の複写は件数や種類にもよるが、基本的には申請の翌日か翌々日に受取ることが可能である。ただし複写料金については、筆者が利用した際、規定により外国人の場合1枚\$10と非常に高額であり、複写料金の支払いには、アルメニア共和国の通貨ドラムではなく、ドルで支払うよう指示された。カタログの複写は原則として、序文 *предисловие* のみであり、本文を複写することはできない。

滞在期間中、10～11月という季節的な問題もあったかもしれないが、アルメニア共和国以外からの研究者とはほとんど出会わなかった。とはいえ、閲覧室はほぼ毎日満席の状態であり（座席は10～15席程度）、閲覧者のマナーも守られていた。

食事をとる場所は残念ながら文書館内にはない。ただし、コチャル通り周辺には比較的入りやすく、値段も良心的なレストランやパン屋のスタンドが数軒あり、不自由はないであろう。またパレカムチュン駅周辺には両替所も集まっており、至便である。

アルメニア共和国において、今回紹介した国立文書館を含めたいくつかの研究機関を利用して、様々な方から助力をいただいた。私が外国人研究者であり、アルメニア共和国本国の歴史や政治に関わる史料調査を行っていなかったためとも考えられるが、彼らは常々「自分たち民族の歴史を知りたい人に対して、我々は協力を惜しまない」という言葉を口にしたものである。このことに深い感慨を覚えずにはいられない。

本稿は、2007年11月14日現在の情報をもとにしている。

最後に、本文書館に関する情報に関して、吉村貴之氏（東京大学大学院産学官連携研究員）およびAJP文化交流協会の方々より無私のご助力を賜った。ここに記し、謝意を表したい。



(東京大学大学院人文社会系研究科博士課程)